

3. インターチェンジの必要性 について

インターチェンジ設置の考え方

- 一般的なインターチェンジの設置は以下の考え方に基づいて計画されている。

インターチェンジの配置計画にあたっては、「地域計画及び広域的な交通運用計画との関連のもとに、社会的、経済的効果などを考慮して最も適切な位置を選定する」とされている。

設置の基本的な考え方

主要道路との交差点

地域内人口がおおむね50,000人以上

重要な港湾、飛行場、流通施設または国際観光上重要な地に通ずる主要道路との交差または近接地点

インターチェンジ間隔が最小1.5～4km、最大20～30km

インターチェンジ利用交通量からみて経済的に適当か

必要に応じて1つのインターチェンジの機能を2箇所分散

域内交通が多い場合や沿線及び周辺の市街化が進んでいる場合はさらに細かい間隔でインターチェンジを検討

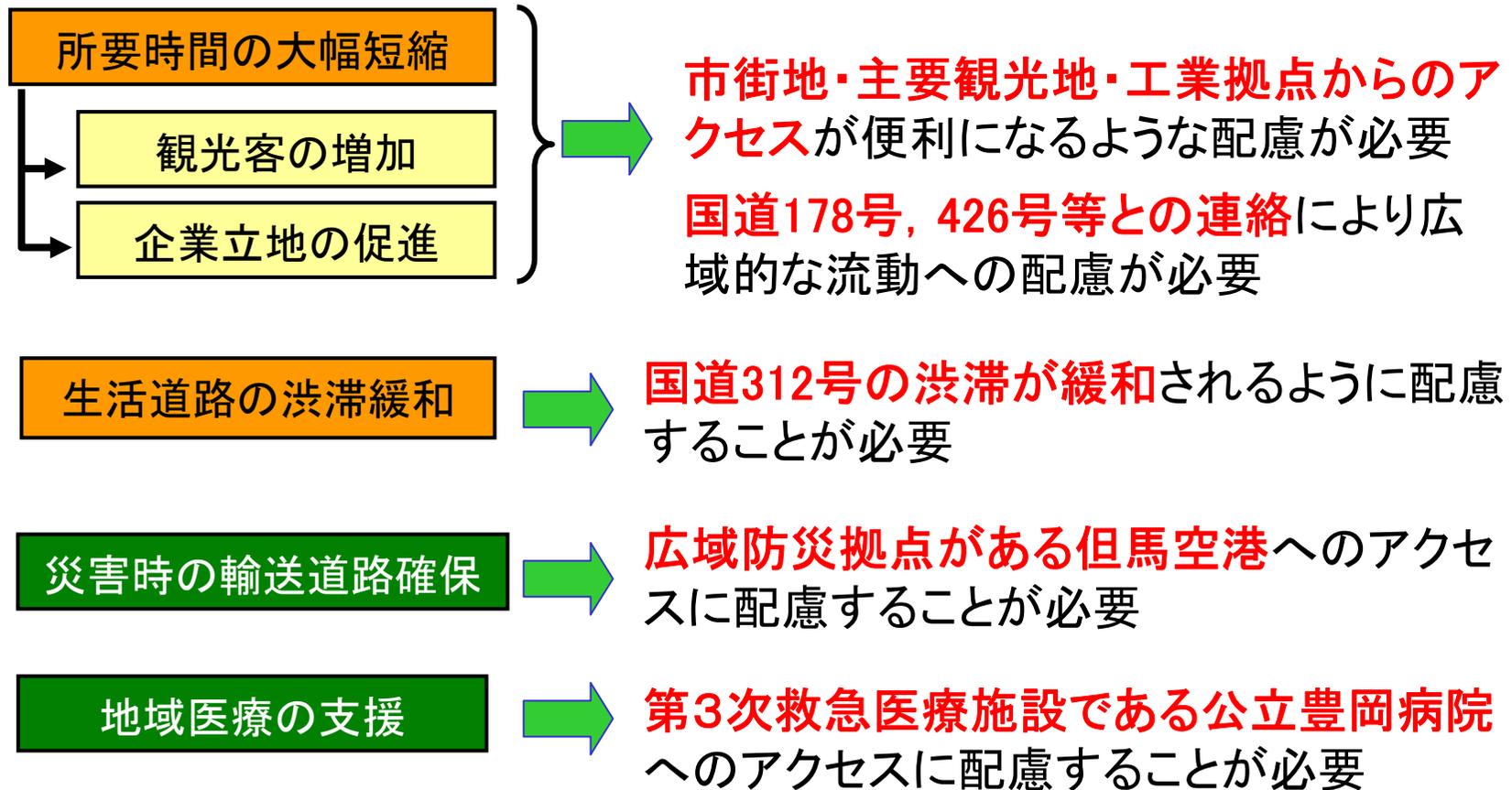
地形に適合する形をえらび、交通の安全と円滑が得られるよう配慮

土地利用の現況と将来の変化等を検討し、できるかぎり生活環境上の保全上問題が生じない位置

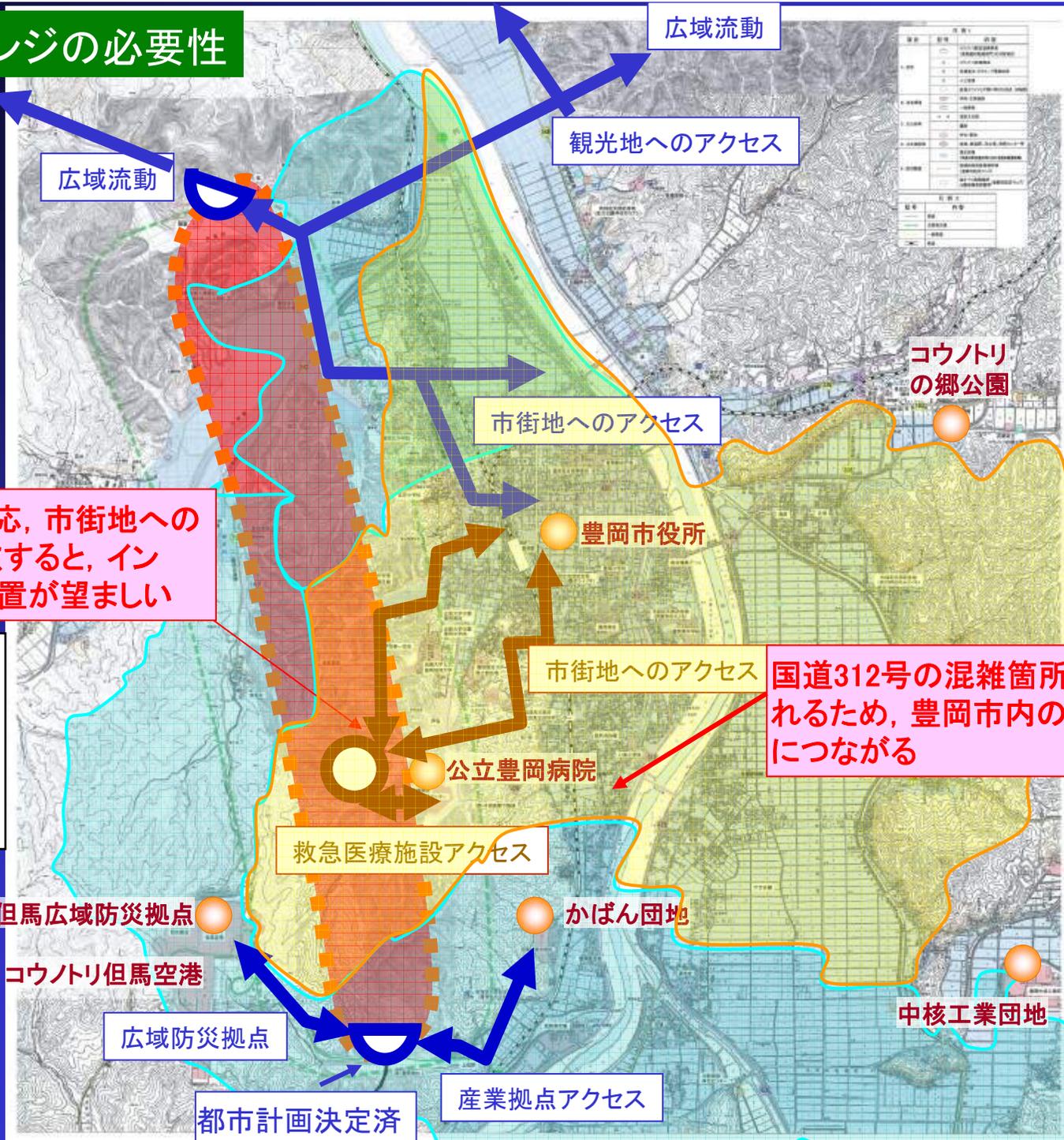
豊岡道路のインターチェンジ設置の考え方

・豊岡道路に求められる以下の機能が発揮できるよう、効果的なインターチェンジの設置が必要

豊岡道路に求められる機能(抜粋) → インターチェンジ設置の考え方



インターチェンジの必要性



救急医療への対応, 市街地へのアクセス性を考慮すると, インターチェンジの設置が望ましい

国道312号の混雑箇所を避けられるため, 豊岡市内の渋滞緩和につながる

